

令和5年10月26日

京丹波町長 畠中 源一 様

京丹波町における須知高校のあり方懇話会

座 長 井戸 仁

京丹波町における須知高校のあり方懇話会  
～意見提言書～

今後も京丹波町の人口減少が見込まれるなか、デジタル化、グローバル化など新たな時代にふさわしい人材の育成と、本町の子どもたちに高校教育をしっかりと保障する観点から、京都府立須知高等学校（以下「須知高校」という。）の今後のあり方や活性化対策について広く意見を求めるために設置された標記懇話会において、委員から出された意見を取りまとめ提言とします。

# 京丹波町における須知高校のあり方懇話会

～将来にわたる持続可能な学校を目指して～

## ■設置目的

今後も京丹波町の人口減少が見込まれるなか、デジタル化、グローバル化など新たな時代にふさわしい人材の育成と、本町の子どもたちに高校教育をしっかりと保障する観点から、京都府立須知高等学校（以下「須知高校」という。）の今後のあり方や活性化対策について広く意見を求めるために設置する。

## ■委員（9名）

氏名	所属	役職
井戸 仁	立命館大学大学院教職研究科 准教授 京丹波町教育政策アドバイザー	座長
西田 大樹	京都府立須知高等学校 PTA 会長	
中西 和之	須知高等学校同窓会代表	
亀田 奈津子	町内の中学生の保護者代表	
上林 太志	京丹波町ホッケー協会会長	
溝上 真悟	石井食品株式会社勤務（産学官連携）	
村山 智広	アズビル京都株式会社勤務（産学官連携）	
坂本 正義	京都府立須知高等学校校長	
谷口 恭子	京丹波町立蒲生野中学校校長	

## ■開催日時

- 第1回 7月26日（水） 17時～19時：須知高校を取り巻く現状や課題 等
- 第2回 8月28日（月） 17時～19時：京丹波町における須知高校への期待 等
- 第3回 9月28日（木） 16時～18時：活性化・持続可能化への関わりの検討 等
- 第4回 10月19日（木） 16時～18時：意見提言とりまとめ

## ■会議概要

須知高校を活性化し、持続可能化とするための町の関わり方や対策等について、次の2つの視点により、幅広く意見をいただいた。

- ① 京丹波町における須知高校の役割
- ② 府の高校改革に関わって須知高校に期待すること

## ■京丹波町における須知高校のあり方に関する基本的な考え方

平成27年度に、当時策定された「人口ビジョン」の実現に向けて、「京丹波町創生戦略」の中で取り組む施策として、第一次の「京丹波町における須知高校のあり方懇話会」を設置し、町内唯一の高等学校である京都府立須知高等学校と京丹波町が将来にわたって共に発展していくために必要な支援等についての検討を行った。

その後令和4年に、京都府において人口減少、デジタル化、グローバル化など社会構造が大きく変化する中、新たな時代の魅力ある府立高校のづくりに向けた「府立高校のあり方ビジョン」が策定された。こうした状況を踏まえ、京丹波町としても本町の子どもたちに高校教育を受ける機会をしっかりと保障し町の将来を支える人材の育成と、今後も須知高校が町づくりに果たす役割を期待する観点から、京都府立須知高等学校の今後のあり方を検討し、活性化による持続可能化に必要な支援等について広く意見を求め、基本的な考え方とその具体的方策例について提言を行うものである。

### 1 京丹波町における須知高校の役割

京丹波町は、日本3大農業教育の発祥の地であり、京都府農牧学校以来の伝統を引き継ぐ須知高校は、町の基幹産業である農業の担い手を育成することはもとより、町の宝である子どもたちを育てる拠点として、町に大きな役割を果たしてきた。また、京都国体を契機に旧丹波町と旧瑞穂町において取り組んできたホッケー競技については強化指定種目とし、全国大会で戦えるレベルを維持するなか、町のスポーツとしての歴史・文化を守りつつ、子どもたちの夢の実現を支えてきた。更に、地域に根ざした探究学習等により、郷土愛を育ぐみ、将来の地域の担い手を育成する教育が進められている。

他方、京都府農牧学校以来の農業教育の伝統を引き継ぐ食品科学科は、広大な校地を強みとして様々な取組を進めており、「食のまち」を推進する京丹波町の施策と呼応し、相互協力のなか発展を続け、須知高校の特色として、町外からも人を引き寄せる他校に無い魅力として確立されている。

このことから、須知高校には、町内の子どもたちに高等教育への就学を保障するとともに、「人づくりは町づくり、町づくりは人づくり」の考えのもと将来の地域の担い手を育成する役割、町の魅力であり強みである「食のまち」推進を支える役割、町の特色あるスポ

一ツ振興に向けた役割、中高連携による地域文化等の継承等に向けた役割を期待し、これらをもとにした須知高校の活性化と持続可能化についてのかかわり方を検討し、次のとおり取りまとめた。

◆将来の担い手育成としての期待

- ・町が須知高校の地域探究学習等の充実に向けて協力や支援を行うこと。
- ・中高連携事業等の推進による交流づくりに町が支援を行うこと。
- ・多様な部活動の実現に向け、指導者の育成などに町が支援すること。
- ・須知高校生の学力と進路の保障、さらに地域探究学習も実施できる公設塾の設置に向け、町が検討を行うこと。
- ・須知高校の進学者数（将来の担い手）の増加に向けた取組を検討し、実施すること。
- ・町は須知高校への通学を支える交通手段を確保すること。

◆町の魅力・強みの強化（食のまちの推進）

- ・須知高校と企業の連携による地場産品等を用いた商品開発や新たな価値の創造の推進に向け、町がマッチング等の必要な支援を行うこと。
- ・須知高校生が卒業後に新規就農や起業等を検討する際に、町はその実現に向けた支援を行うこと。
- ・須知高校生が飲食店などの食関連事業等で起業する際に、町はその実現に向けた支援を行うこと。
- ・須知高校で京丹波町産食材を使用した昼食が提供できるよう、町は協力を行うこと。

◆町の特徴あるスポーツ振興

- ・町は、ホッケー競技人口の増加に向けた取り組みを推進すること。（幼少期での普及活動）
- ・小中高生のホッケー競技を通じた連携が進むよう、町が交流の場をつくること。
- ・須知高校が実施しているホッケー競技の全国募集に必要な学寮の設置に向けて働きかけを行うこと。
- ・須知高校の部活等の活性化に、町内企業等が協力（スポンサー等）できるよう、町が関係づくりを行うこと。
- ・町は京都市や近郊都市等を括りとしたホッケー競技のジュニアチームの結成に必要な支援を行うこと。
- ・町はホッケー選手の活躍の場づくりに向け、必要な支援等を行うこと。
- ・須知高校生が部活動等で夢を実現することへの後押しとなる支援を町は強化すること。

◆中高連携による文化継承等

- ・須知高校と中学校が連携し、授業等で伝統芸能が学べるよう、町が支援を行うこと。

## 2 府の高校改革に関わって須知高校に期待すること

京都府の南丹地域では少子化の進行により、公立高校において入学者数が定員を充足しない状況となっている。こういったことも踏まえ、現在進められている高校改革では今まで以上に学校ごとの特色を生かし、充実させ、府立高校の果たすべき役割を発揮することで、それぞれが目的によって選ばれる学校づくりを目指し、検討が行われている。

このことから、須知高校の特性に鑑み、京丹波町全体が連携し、高校の活性化に向けて取り組むべき事項として、須知高校の特色化、差別化、企業や行政と連携したレベルの高い事業の実施、高大連携等の推進、特色化を図るうえで必要な条件整備等について、須知高校のあり方と町のかかわり方、活性化による持続化に向けた検討を行い、次のとおり取りまとめた。

◆須知高校の特色化・差別化に向けて期待されること

- ・須知高校と地域が連携した教育の推進に町は支援すること。（地域振興会等との連携）
- ・町・企業等と須知高校が連携したレベルの高い協働研究型プロジェクトを実施すること。
- ・産学官の連携による事業の推進に向け、町が検討と調整を行うこと。
- ・中・高・行政の連携による町づくりの推進に向け、町が検討と調整を行うこと。

◆企業や行政との連携による事業の高次化

- ・企業が須知高校生に技術指導等を行う場合、町は協力を行うこと。
- ・企業から須知高校生に商品の価値づくりに関わる品質基準や工程管理等の学びが提供できるよう、町は協力を行うこと。
- ・須知高校生と企業の社員等との交流による学びの場づくりに向け、町は協力を行うこと。
- ・須知高校生の視点による企業の改善活動への参画に向け、企業とのマッチングや調整等の支援を行うこと。
- ・企業が須知高校での出前講座を実施するにあたり、必要な支援等を行うこと。
- ・町は須知高校生がまちづくりに参画（タウンプロモーション等）できる場を提供すること。

◆高大連携を踏まえた須知高校の在り方

- ・須知高校が京都府立大学の食文化研究分野を担う附属高校として発展できるよう、町は働きかけや支援を行うこと。
- ・町は、須知高校と林業大学校が連携するにあたって必要な支援等を行うこと。

◆特色化を図るうえで必要な条件整備

・須知高校が生徒の全国募集等を行うにあたって必要な寮等の整備について、町は協力を  
行うこと。

・須知高校の特色ある学びを支える公設塾の整備に向け、町は協力をを行うこと。